

# 聖和短期大学通信 No. 7

## ごあいさつ

卒業生の皆さまにはますますご活躍のこととお慶び申し上げます。今年は寒暖の差がとてもはげしい冬でした。そのような中においても聖和キャンパスの木々は確実に春の準備をはじめています。この聖和短期大学通信も第7号を皆様の御手元にとどけることになりました。学校法人聖和大学と学校法人関西学院が合併して誕生したこの「聖和短期大学」も7年の歴史を刻みました。2016年度は8年目となります。2015年度には、文部科学省の新しい教育プログラムである「職業実践力育成プログラム」(BP)に申請し、この12月に認定を受けました。テーマは「保育実践力育成プログラム(BP)—保育の学び直しプログラム—」で、「女性活躍」のテーマ該当プログラムです。しばらく職場を離れていた人が職場復帰の際や資格を持ちながらも働いていない人に対して、最近の保育の状況・動向等を現場実習も含めて学び直し機会を提供するものです。新しい保育制度、アレルギーや危機管理等の知識、保育実践、現場実習など、現職の先生方が「質の高い保育」を行うために重要な事項も含まれているため、現職研修としても活用可能です。本講座の受講者が、より高度な専門的知識や技術を修得し、子どものために活躍できる力を育成することを目指しています。

また、この1月には厚生労働省より専門実践教育訓練講座の指定を受けました。これは、雇用保険に2年以上加入していた方が、本学に入学し、将来保育士の職業についての場合、本人に対して最大96万円の費用補助が受けられるものです。短期大学の使命として様々な人に適切な機会を提供できるよう、今後も励んでまいりたいと思います。

キャンパスの中では、教育施設の充実を図るため10号館(旧寮)を取り壊し、新2号館を建築する工事が始まりつつあります。10号館は昔の建物であるため現在の建築基準に合致せず教室として使用することは不可能であったため、あまり使われておりませんでした。はじめの工事として、10号館の前に植えられているヒマラヤ杉を工事のために移植することになり、昨年の夏から移植の準備を進めていました。2月3日に大型クレーンを用いて、新しい場所に移植しました。そこで根付いて今後もクリスマスツリーとして多くの人にやすらぎを与える灯火となることを期待しています。

さて、卒業生の皆さまにお願いしたいことがあります。学生の中には、経済的に厳しい状況の中で勉学を続け、支援を必要とする者も数多くいます。また、教育研究活動充実のためにも、施設・設備等の環境整備も本学としては急務となっております。つきましては、卒業生の皆さまから、在学生のために少しでもご寄付という形でご支援をいただくと大変ありがたく存じます。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。(ご寄付に関しては、下記をごらん下さい)

最後に長年本学で教鞭をとっていただいた広渡純子教授と前田佳代子准教授が2015年度末をもって本学の専任の職を終えることになりました。これまでの様々なお働きに感謝いたしますとともに今後のご活躍をお祈りいたします。

本学は、これからも多くの方々のお力添えと祈りに支えられて歩み、保育者を養成する目的を果たしていく所存です。今後も変わらずご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。



学長 千葉 武夫

## ☆寄付金のお願い ～ 卒業生の皆さまから、学生支援のために ～

本学では、学生生活支援および教育研究環境の充実のために、寄付金を募集しております。寄付金のお申し込み及びお問い合わせについては、下記までご連絡をお願いいたします。なお、寄付金のお申し込みの際には、「聖和短期大学のために」と申し添えください。(※ご協力いただいた寄付金は、個人、法人ともに税制上の減免措置を受けることができます。)

### 【寄付金に関する申込・問い合わせ窓口】

聖和短期大学 事務室 (〒662-0827 西宮市岡田山7-54 TEL: 0798-54-6504)

## ～2016年度の主なスケジュール～ (2016年4月～2017年3月)

入学式	2016年	4月1日
夏のオープンキャンパス	6月19日、7月17日、9月4日	
ホームカミングデー		9月4日
研修会(卒後支援)		11月19日
短期大学クリスマス礼拝		12月15日
卒業感謝礼拝	2017年	3月16日
卒業式		3月17日
春のオープンキャンパス		3月24日

※上記日程は予定です。変更等がある場合は、聖和短期大学ホームページにてお知らせしますので、ご確認ください。

### 連絡先 聖和短期大学事務室

住所 〒662-0827 西宮市岡田山7-54

電話 0798-54-6504

E-mail [tandai-jimu@kwansei.ac.jp](mailto:tandai-jimu@kwansei.ac.jp)

URL [http://www.kwansei.jp/seiwa\\_j\\_college/](http://www.kwansei.jp/seiwa_j_college/)

2016年3月1日発行

学校法人関西学院 聖和短期大学

この度、2016年3月31日付で、広渡純子教授および前田佳代子准教授の両先生がご退職されることとなりました。広渡先生は32年間、前田先生は7年間、聖和短期大学の発展にご尽力されてきました。ここに両先生からの在職中の思い出や卒業生の皆さまに向けた感謝を綴ったメッセージが届いておりますので、ご紹介いたします。

## 退職にあたって

広渡 純子

聖和キャンパスの1号館3階にある私の研究室の窓からは、「聖和の森」が一望できます。春は桜、夏は新緑、秋の紅葉、落葉の冬と移り変わる木々の装いは、四季折々に私たちの目を楽しませてくれます。また、キャンパスに遊びに来る子どもたちの笑う声、泣く声、友だちや先生を呼ぶ声、学生たちのおしゃべりや歌声、楽器を演奏する音も響きます。早朝や休日など人気のない静かなキャンパスでは、枝から枝へと飛び回る小鳥たちの愛らしい姿に慰められます（3階からは木の上の方がよく見えます）。このような豊かな自然に恵まれたキャンパスで教員生活を送ることができましたことは何よりの幸せでした。

私がこのキャンパスに初めて来たのは、1980年春、聖和創立百周年の年です。京都の大学で英文学を学び、大学職員としてしばらく働いた後、新たに幼児教育を学ぶために30歳で聖和大学大学院に入学するためでした。大学院修了後、教会附属の幼稚園に就職し、33歳の新米保育者として3歳児を相手に四苦八苦の毎日を送りました。1984年に聖和短期大学の助手となり、以来32年間、保育者養成に携わることになりました。

30歳を過ぎて初めて知った「子どもの世界」の面白さ、不思議さ、豊かさ。この出会いはそれまでの私を大きく変えました。そして私にとっての生涯の喜びとなりました。子どもたちは、私たち大人が見失ってしまった人間の原点をもう一度思い起こすきっかけを何度もくれました。たとえば子どもたちは、互いに異なる個性や意志のぶつかり合いをとおして、自分とは違う「他者」と出会い、思いが一致する喜びを味わったり、思いがすれ違って悲しんだり、思いがぶつかって怒ったり泣いたりしながら、次第に一緒に遊ぶ楽しさを学んでいきます。今、世界では、文化や宗教などの「違い」を理由に人間同士が憎しみ合い報復し合うという悲惨な負の連鎖が続き、たくさんの命が失われていますが、ぶつかり合いながら他者と共に生きることを学んでいく子どもたちの姿が教えてくれる人間本来の姿は、今、この時代がいちばん学ばなければならないことではないでしょうか。

今、退職にあたり、他のどこでもないこの「聖和」で保育に出会い、保育者養成に携わることができたことの幸せを思います。助手時代の私に「聖和の保育」への手ほどきをしてくださった今は亡き島田摂子先生、堀江せん先生。絵本やことばの楽しさを教えてくださった原瑠璃子先生。信仰の師であった香月恒子先生。他にもここには書ききれないほど多くの先生方に導いていただきました。そして何よりも、保育者になる夢の実現をめざし、ハードな2年間を互いに励まし合いながら学ぶ学生たちの姿は大きな喜びでありました。また卒業生の皆さまの良き働きと母校へのエールは私たち教職員のエネルギーの源でもありました。言い尽くせない感謝の気持ちでいっぱいです。聖和を離れても変わらずに「子どもの幸せを守る」仲間として歩みたいと思います。いつも神さまが共にいてくださいます。皆さまお元気です！



イースター礼拝のエッグハンティングで

## 聖和での誇らしい日々

前田 佳代子

私は、聖和短期大学と関西学院の合併年である2009年に学校法人関西学院聖和短期大学に着任して7年、この3月末で退職となります。この間、多くの聖和短期大学生や教職員の皆様に刺激を受け、導いていただきましたことを深く感謝しております。また、前職も含め長年の間、保育者として、養成校の教員として、このような若くエネルギーに満ち溢れている場に身を置くことができたことはとても幸せでした。

長年保育所で保育士・園長として働いていましたが、これまでのキャリアを活かしていつか保育士養成に携わりたいと願っていたので、聖和短期大学で教員生活を送ることが決まったときは「天にも昇る気持ち」でした。また、私が聖和に対して抱いていた多くの「なぞ」が解けることも楽しみの一つでした。

と言いますのも、園長時代に、保育実習における聖和生の姿勢が他学生のそれとどこが違うと感じていたからです。学校がされる格別な指導とは？一生懸命になれる学生や校風の醸成とは？多くのことが「なぞ」でした。例えば、

- ・実習のオリエンテーション時には、園のスリッパを使わず、必ず布袋に入れた上履きをカバンから出して履いている。
- ・実習記録に注ぐエネルギーが半端ではない。（そのため、聖和の実習担当には、できる限り聖和の卒業生を充てるよう心がけました。それは、聖和卒だから指導できる秘訣があると直感的に感じたからです。）
- ・履歴書を丁寧に扱っている。（履歴書を三つ折りにして定型封筒に入れ提出する他大学の学生がたまにいる中、聖和生は必ずクリアホルダーに履歴書を入れ、折り目を付けず提出しています。）

などなど枚挙に暇はないのですが、これらの謎解きは、短大で実習に携わることでおおむねクリアできたように思います。

実習指導はとても大変です。

学生たちは、「記録を作成するのがとても大変だ」と口ぐちに言います。同じように教員は、「記録を見るのがとても大変だ」と心の中で言います。「服装や髪の色、実習の心構えについて指導が細かすぎる」とも言いますが、教員は、「これを言うと嫌われるかも知れないが、実習先で言われるよりいいだろう」と腹をくくり、嫌事を言います。とてもストレスフルな仕事です。この先もきっと毎年、学生と教員のやり取りは繰り返されるでしょう。

特に、1年生の『教育保育参観実習』の頃の学生たちとの関係づくりは格段の覚悟と根気が必要でした。それが、2年生の『教育実習』『保育実習』を終えた頃には、学生たちの姿が見違えるほどに成長してくれるのです。もちろん実習先の先生方のご努力があったのですが、教員にとって誇らしいストレスフリーな出来事なのです。

さて、私はいつも、最終の分級授業で学生たち「『聖和の保育』って何だと思うの？」と聞きます。多くの学生の意見を要約すると、「優しさ」「思い遣り」「信頼する心」「信頼に応じる保育者」、そして「心を育てる保育」です。また、それらは、キリスト教保育を土台とし形成されているとも言います。「聖和の保育」とは一言で語りつくせないのですが、これからも「私が考える『聖和の保育』を大切に守り続けよう」と学生たちと確認しあいます。

多分、聖和の実習はこのようにして、それぞれの思いを積み重ねることで、長い歴史と伝統を築いてきたのだと思います。

また、今だからこそ求められているものがあります。それは「新しい息吹」です。新しい組織の在り方や理論、新しい感性を持った人材です。

聖和の保育が大切にするとところは、保育所保育指針に貫かれている「子どもの最善の利益の尊重」、「Children First」を大切にする教育・保育や子育てだと思えます。

今後も聖和の保育や長い歴史と伝統を、在校生、卒業生や教職員に受け継がれていくことを心より願っております。



2015年度ゼミ生と一緒に

☆未筆ではありますが、広渡先生、前田先生の永年の聖和へのご貢献に感謝申し上げますとともに、今後、益々のお二人のご健勝をお祈り申し上げ、お礼のことばとさせていただきます。

## ～ 新任教員ご紹介 ～

2015年4月から、新しく着任された2名の教員を紹介します。

①職位 ②専門 ③趣味 ④抱負・メッセージ

### 坂口 将太 (Sakaguchi Shota)



- ①専任講師
- ②体育・スポーツ、発育発達
- ③スポーツ、読書

④2015年4月より新しく着任した坂口将太と申します。専門は体育・スポーツで子どもの運動能力に関する研究をしています。主に、子どもの発育発達や運動に関する授業で、保育の現場に合わせた形で知識や経験を学生に提供していきます。伝統ある聖和で学生と共に学び成長していきたいと考えております。

### 山内 信子 (Yamauchi Nobuko)



- ①専任講師
- ②音楽（ピアノ専攻）
- ③旅行、温泉めぐり、スキー

④卒業生の皆さま、はじめまして。2015年4月に着任し、主に「音楽」の授業を担当しております。若さとパワーに溢れる学生や経験豊富な諸先生方や職員の方々との日々の交わりの中で、私自身も育てていただいていると感謝しています。学歌の歌詞にあります「all for Christ」の精神を若い世代に継承し、微力ながら聖和短期大学の今後の発展に貢献できればと考えています。今後とも、どうぞ宜しく願い申し上げます。

## ☆認定ベビーシッター資格登録更新手続きのお知らせ

2009年度（2010年3月）迄の卒業生で認定ベビーシッター資格を取得された方は、登録更新を迎えましたので、お手続きをお願いいたします。

なお、資格更新期限は5年間となっておりますので、お手許の登録証（カード）を確認のうえ、更新の該当年度にはお手続きいただきますようお願いいたします。

※手続き窓口は右記参照⇒

#### 【手続窓口】

公益社団法人 全国保育サービス協会

（旧称：社団法人 全国ベビーシッター協会）

〒160-0017 東京都新宿区左門町6-17 YSKビル7F

Tel.03-5363-7455 E-mail info@acsa.jp

※手続の詳細はこちらのURLへ

<http://www.acsa.jp/htm/infomation/index.htm>

# TOPICS & NEWS

## ☆2016年度ホームカミングデーのお知らせ



卒業生の皆さまにおかれましては、元氣でご活躍のこととお喜び申し上げます。

2015年度ホームカミングデーは9月6日（日）に開催されました。今年度は、2012年度卒業生の方を中心に内容を企画していただき、「はじける卒業生！」と題して、2部形式で実施いたしました。約50名の参加の下、第1部はドッジボール大会、第2部ではマナホール（学生食堂）での先生方や旧友との懇談などを行い、学生時代を懐かしみながら、楽しい一時を過ごしました。中でもドッジボール大会は、テーマのとおり、学生時代に返ってのハッスルプレーが続出し、大いに盛り上がりました。

さて、2016年度につきましては、9月4日（日）にホームカミングデーを予定しております。皆さまにおかれましてはご多忙とは存じますが、是非、聖和キャンパスへ足をお運びいただき、近況報告や思い出話に花を咲かせていただければと思います。

なお、開催時刻・プログラム等の詳細につきましては、聖和短期大学ホームページ等でお知らせいたしますので、ご確認いただければ幸いです。

## ☆10号館建替えのお知らせ — 新しく2号館（仮称）建設が始まります。

聖和キャンパスの10号館は、古くは学生寮として、最近では保健館分室、学生相談室、サークルの部室やピアノ練習室として、学生のキャンパスライフを支えてきました。

この10号館の建替えが決まり、新しく2号館（仮称）が建設されることとなりました。2号館（仮称）は2017年4月に竣工予定で、学生の自主学習スペースとなるラーニングコモンズや多人数でのピアノレッスンが展開できるミュージックラボの他、保健館分室、学生相談室等が入る予定です。聖和キャンパスの新しい顔として、より充実した教育研究環境が整備されることとなります。

※右の写真は建替えに伴い移植されるヒマラヤ杉の移植工事の様子です。



## ☆職業実践力育成プログラム（BP）が採択されました。

### 「保育実践力育成プログラム（BP）—保育の学び直しプログラム—」のご案内

本プログラムは、保育の現場で働く人材の確保のために、しばらく職場を離れていた幼稚園教諭や保育士が職場復帰を希望する際や、資格を持ちながらも働いていない保育士等に対して、最近の保育の状況・動向等を現場実習も含めて学び直すことができるようなプログラムを提供するものです。

この講座の特徴は、自信を持って職場復帰することができるように新しい保育制度や家庭支援等の理論、アレルギーや危機管理等の保育配慮する事項、保育実践等の内容、および現場実習で編成しています。また、本プログラムの内容は、現職の保育士が「質の高い保育」を実施するために重要な事項も含まれており、現職研修としても活用できるように計画的に構成しています。

「保育は人の手によって行われる営み」であり、子どもの育ちに大きな影響をあたえるのは「保育者」です。本講座の受講者が、より高度な専門的知識や技術を修得し、今後保育のリーダーとして活躍できる力を育成することを目指しています。

#### <プログラムの概要>

- 受講要件：①幼稚園教諭免許または保育士資格を有すること。  
②全期間受講できること。
- 受講期間：平成28年4月～平成30年3月（2年間）
- 開講科目：保育と研修、保育と研修Ⅱ（以上、集中講義）  
保育実践（実習）、保育学研究演習（演習）



※プログラムの詳細に関する問い合わせ先：聖和短期大学事務室（Tel0798-54-6504）